

環境委員会資料

1 所管理事者の紹介及び事業概要の説明

資料3 事業概要

港 湾 局

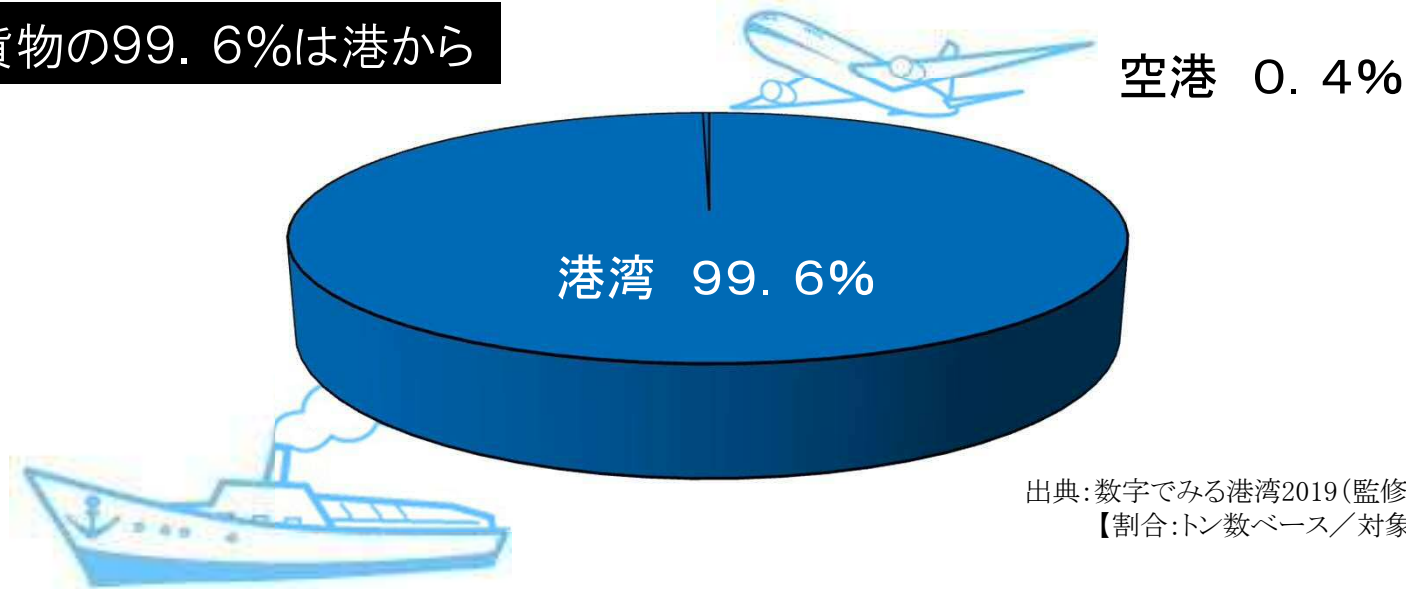
(令和2年4月9日)

An aerial photograph of Kawasaki City, Japan, showing a dense urban area, a large river (the Sagami River), and industrial zones. In the background, the snow-capped peak of Mount Fuji is visible under a clear blue sky.

事業概要

令和2年 4月
川崎市 港湾局

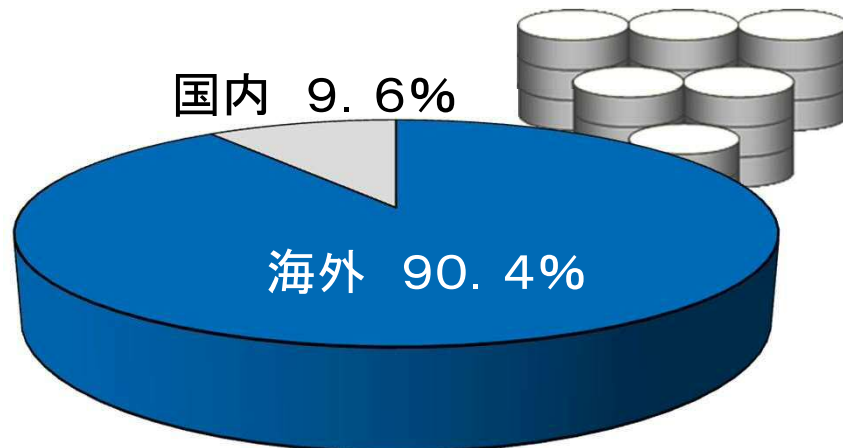
輸出入貨物の99.6%は港から



出典: 数字でみる港湾2019 (監修: 国土交通省港湾局)
【割合: トン数ベース / 対象年: 平成30年】

エネルギーの9割以上は海外から

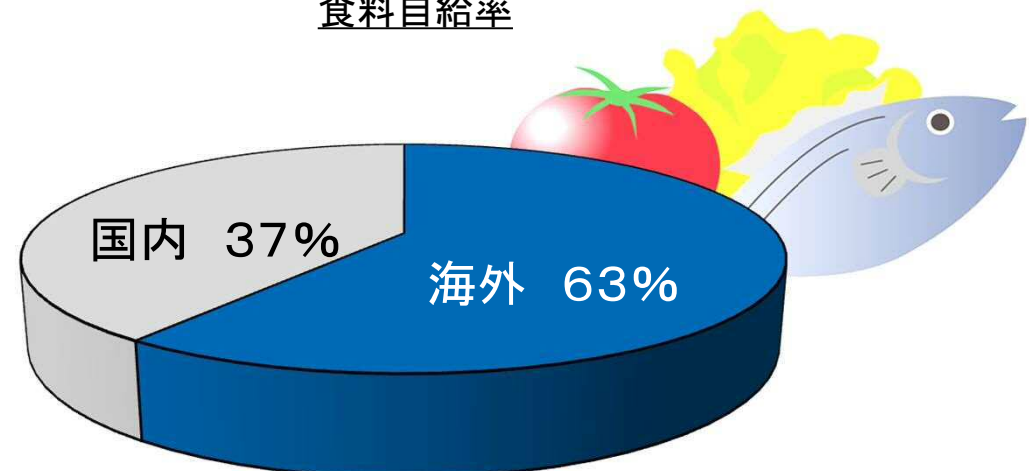
エネルギー自給率



出典: 日本のエネルギー 2018年度版 (経済産業省資源エネルギー庁)
【対象年: 平成29年 確報値】

食料の6割以上は海外から

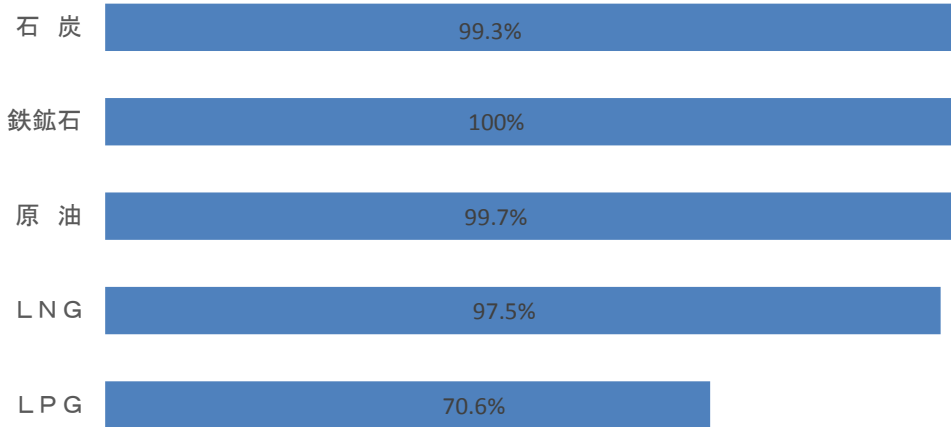
食料自給率



出典: 農林水産省HP 「食料自給率の推移」(概算値)
【割合: カロリーベース / 対象年: 平成30年度】

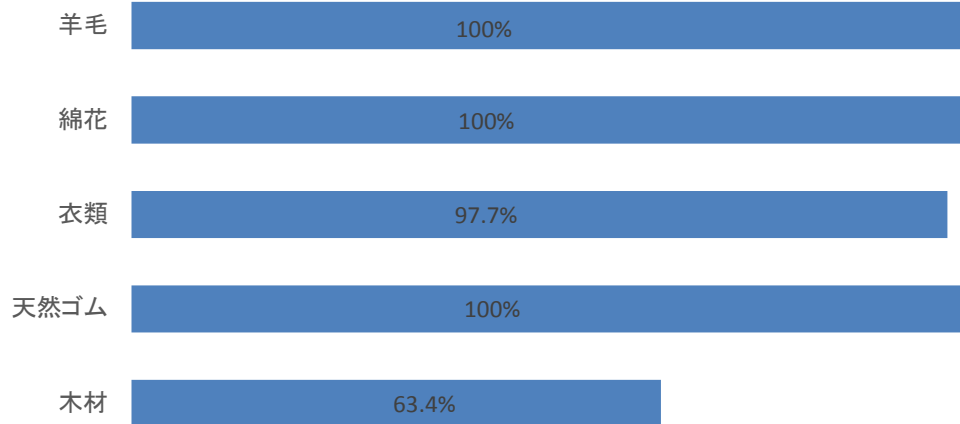
主な資源・物資の対外依存度

【エネルギー資源】



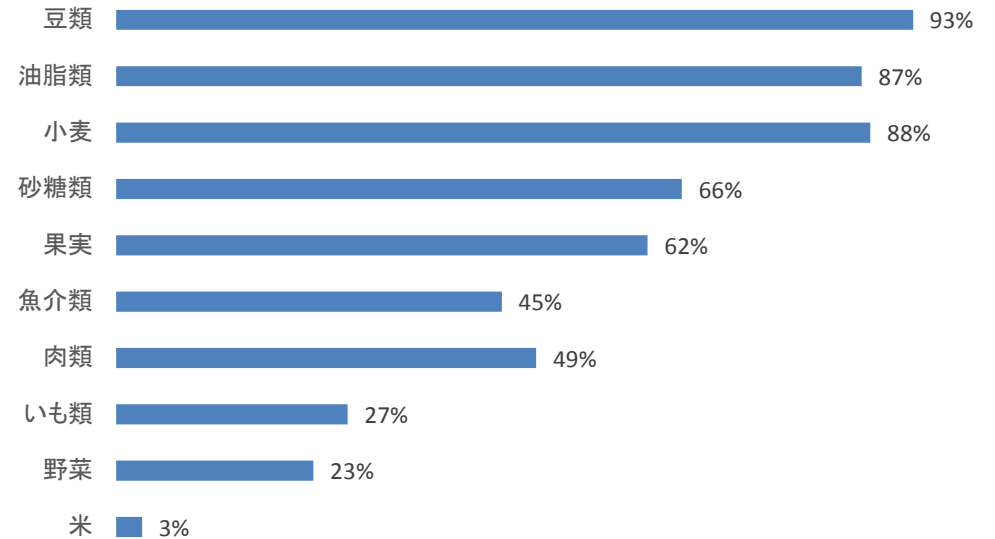
出典: エネルギー白書2019(経済産業省 資源エネルギー庁)
日本の海運 SHIPPING NOW2019-2020(公益財団法人:日本海事広報協会)

【衣・住 関連物資】

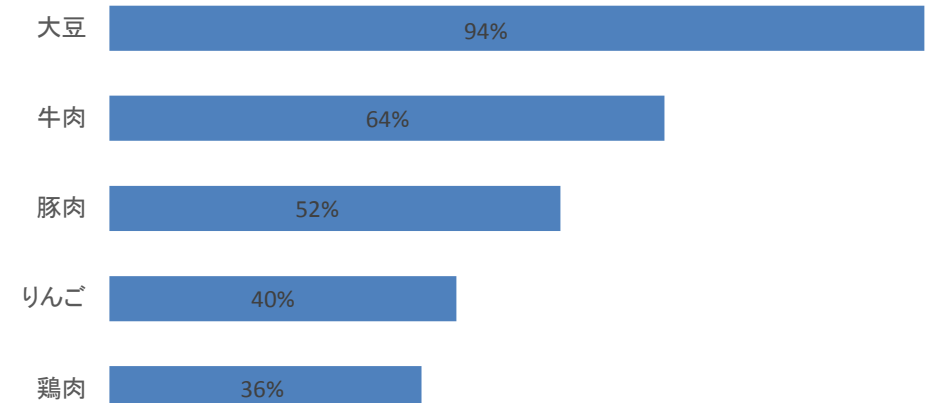


出典: 平成30年 木材需給表(農林水産省 林野庁)
日本の海運 SHIPPING NOW2019-2020(公益財団法人:日本海事広報協会)

【食 関連物資】



＝具体的な品目＝



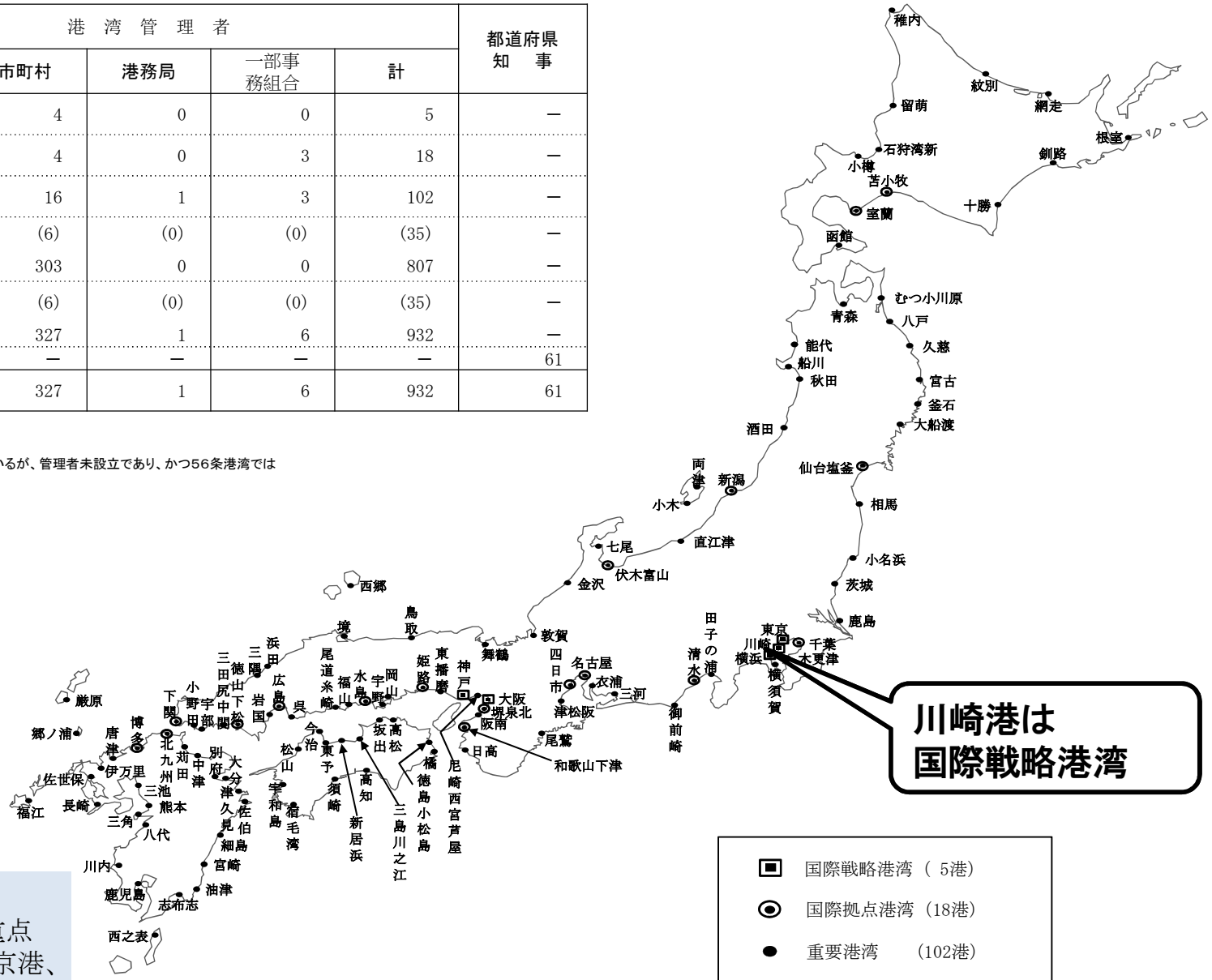
出典: 平成30年度 食料需給表(農林水産省)

平成31年4月1日現在

区分	総数	港湾管理者					都道府県知事
		都道府県	市町村	港務局	一部事務組合	計	
国際戦略港湾	5	1	4	0	0	5	—
国際拠点港湾	18	11	4	0	3	18	—
重要港湾	102	82	16	1	3	102	—
(うち避難港)	(35)	(29)	(6)	(0)	(0)	(35)	—
地方港湾	807	504	303	0	0	807	—
(うち避難港)	(35)	(29)	(6)	(0)	(0)	(35)	—
計	932	598	327	1	6	932	—
56条港湾	61	—	—	—	—	—	61
合計	993	598	327	1	6	932	61

出典：国土交通省港湾局総務課調べ。

(注) 東京都の洞輪沢港は避難港指定を受けているが、管理者未設立であり、かつ56条港湾ではないので本表より除く。



【国際戦略港湾とは】

国際戦略港湾は、国際競争力の強化を重点的に図る必要がある港湾で、国内では、東京港、横浜港、川崎港、大阪港、神戸港の5港が指定されています。

川崎港の位置

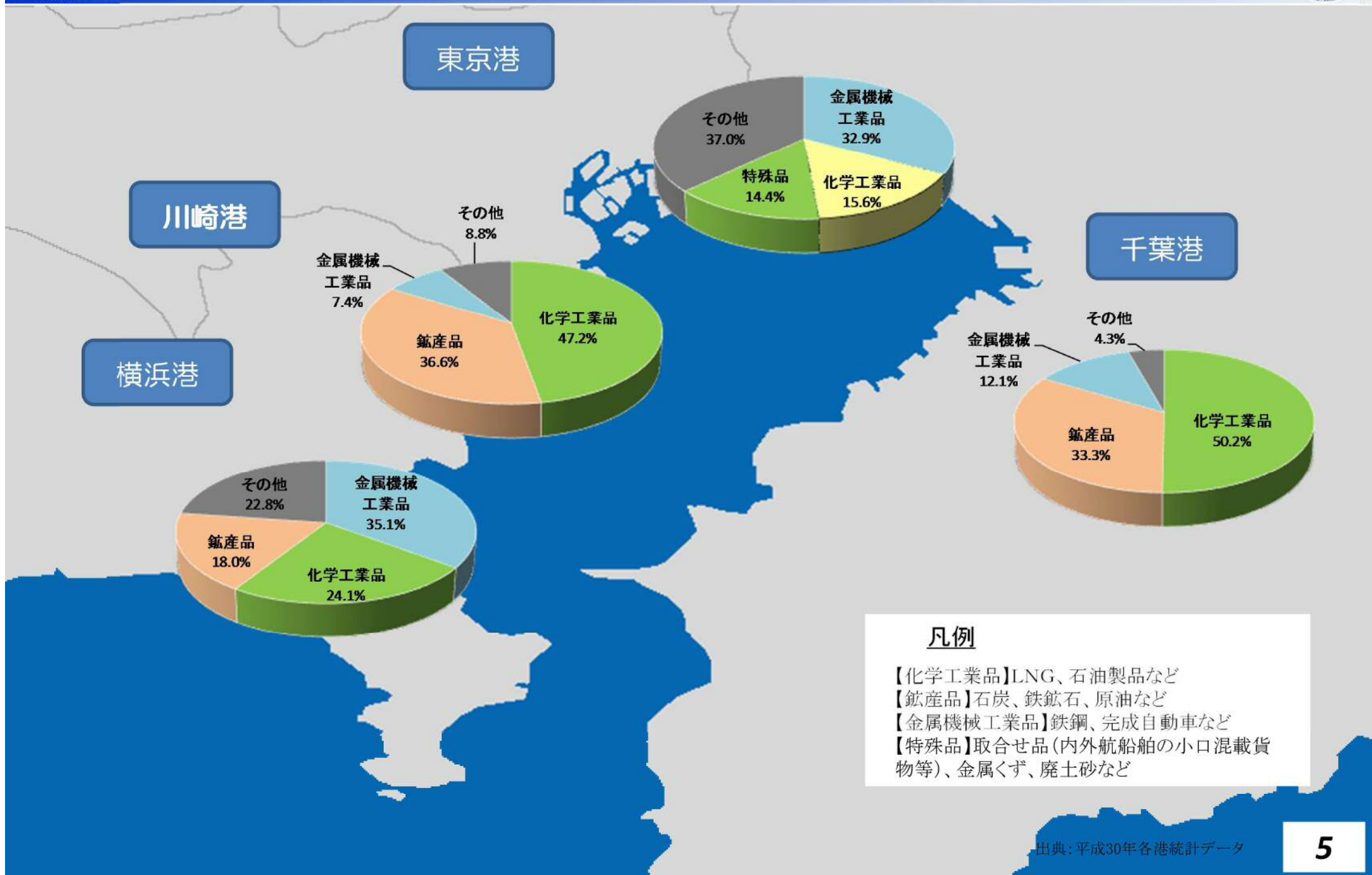


■ 主な高速道路（インターチェンジ間）の距離

起点インターチェンジ	終点インターチェンジ	距離
東扇島（川崎港）から	宇都宮(栃木県)まで	158.2km
	前橋(群馬県)まで	147.2km
	水戸(茨城県)まで	129.2km
	甲府昭和(山梨県)まで	152.7km
	湾岸千葉(千葉県)まで	74.3km
	大井南(東京都)まで	14.3km
	本牧ふ頭(神奈川県)まで	11.1km



川崎港の特色



港湾取扱貨物量ランキング(平成30年)

(単位:千トン)

順位	港名称	合計	輸出	輸入	内貿
1	名古屋港	196,593	53,711	75,938	66,944
2	千葉港	153,198	9,645	82,756	60,797
3	横浜港	113,958	32,851	45,627	35,480
4	苫小牧港	107,444	1,282	16,267	89,895
5	北九州港	101,762	7,271	25,272	69,220
6	神戸港	95,486	23,708	28,453	43,325
7	東京港	91,543	13,289	36,537	41,718
8	水島港	87,246	10,019	45,738	31,488
9	大阪港	83,793	9,626	26,325	47,842
10	川崎港	81,088	7,492	43,235	30,361
11	堺泉北港	72,116	3,787	22,971	45,359
12	四日市港	60,562	4,222	35,982	20,358
13	徳山下松港	51,228	3,773	16,180	31,275
14	仙台塩釜港	48,675	2,070	13,849	32,756
15	和歌山下津港	35,311	4,487	16,305	14,519
16	博多港	34,260	8,333	11,068	14,859
17	姫路港	33,322	873	19,176	13,273
18	新潟港	32,297	1,131	14,064	17,102
19	室蘭港	22,673	1,565	10,212	10,896
20	清水港	18,938	4,545	8,238	6,155

出典:川崎港統計年報(平成30年)



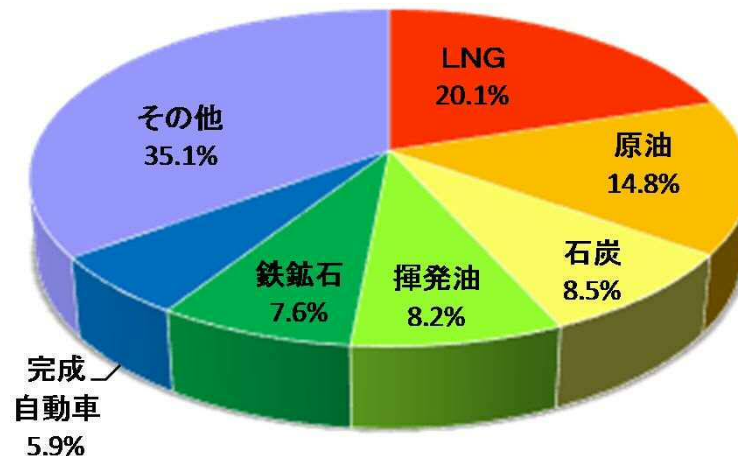
川崎港の取扱貨物量
(平成30年)は全国 **第10位**

貿易額(平成30年分)

出典:川崎税関支署「川崎港貿易概況」

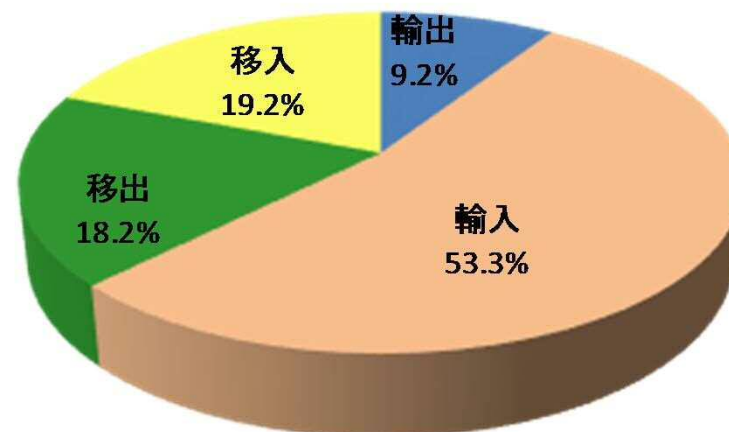
輸出額 1兆1,144億8百万円
輸入額 2兆3,651億91百万円

取扱貨物の種類



出典:川崎港統計年報(平成30年)

出入貨物の割合



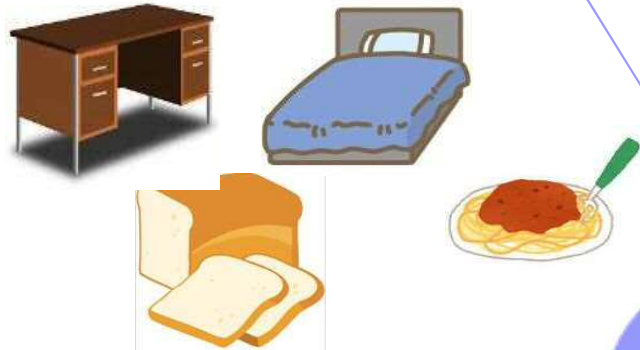
出典:川崎港統計年報(平成30年)

市民生活に身近な川崎港



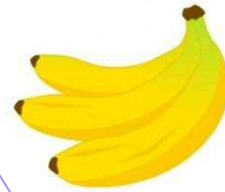
取扱貨物の種類

家具や雑貨、小麦、冷凍食品など日常生活に身近な商品



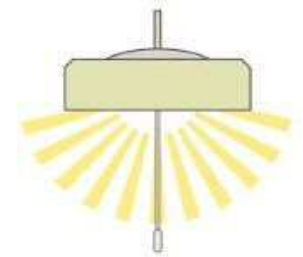
川崎港の冷凍冷蔵倉庫群の設備能力は約100万トン
首都圏(1都7県)4,400万人の食を支えています

出典: 神奈川県冷蔵倉庫協会HP
総務省統計局HP

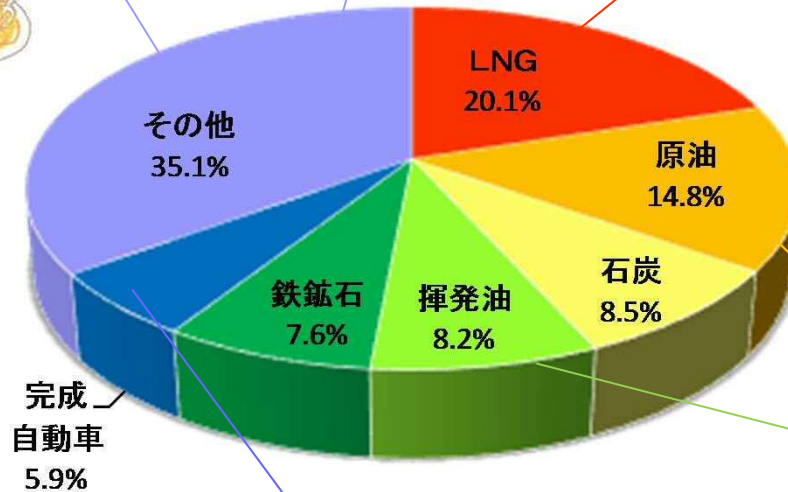
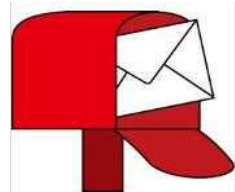


川崎臨海部の発電能力は約758万kW
一般家庭の消費電力は首都圏で約769万kW

出典: 川崎市臨海部国際戦略本部
(平成30年7月現在)



- ・川崎臨海部の工場で1日に生産される小麦粉は約1,500トン
(国内で生産される小麦粉の1割)
※食パン600万斤分
または、うどん 1,800万食分に相当
- ・海外との間で輸出入されている船便の国際郵便物及び小包は全て川崎港を經由



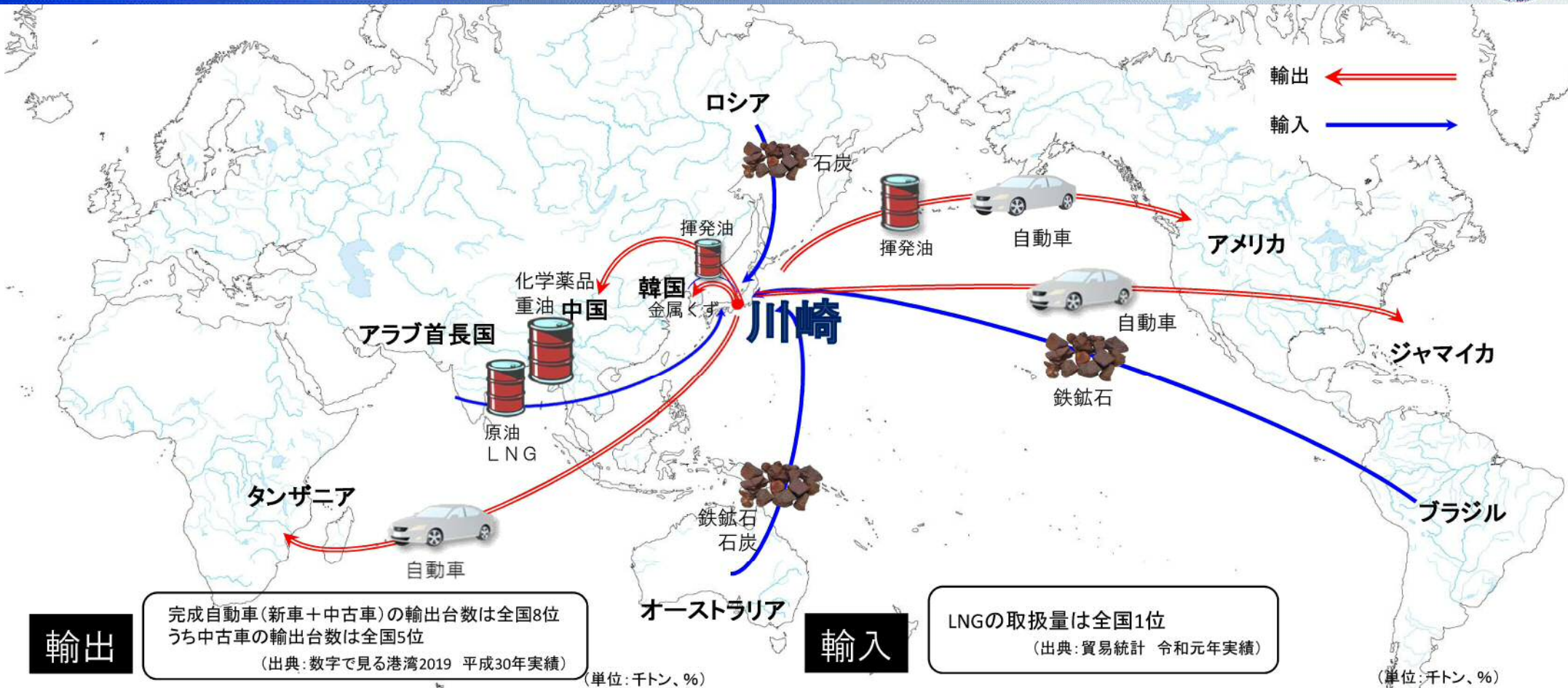
出典: 川崎港統計年報(平成30年)

多くの電力を供給し、ガソリンや灯油など様々な燃料として利用

建築、自動車、家電など日常生活に利用される鋼板



川崎港と世界のむすびつき



品 種	平成30年		主な輸出先		
	数量(千トン)	構成比(%)	1	2	3
完成自動車	2,095	28.0	アメリカ (64.4%)	ジャマイカ (5.9%)	タンザニア (4.8%)
化学薬品	1,363	18.2	中国 (65.3%)	韓国 (20.0%)	台湾 (10.0%)
金属くず	1,068	14.3	韓国 (50.4%)	ベトナム (26.6%)	中国 (15.6%)
重 油	836	11.2	中国 (42.2%)	香港 (26.1%)	シンガポール (18.1%)
揮 発 油	543	7.3	アメリカ (34.8%)	韓国 (34.6%)	中国 (11.5%)
そ の 他	1,586	21.2	-	-	-
総 合 計	7,492	100.0	-	-	-

品 種	平成30年		主な輸入先		
	数量(千トン)	構成比(%)	1	2	3
L N G	16,264	37.6	アラブ首長国 (34.6%)	オーストラリア (31.3%)	マレーシア (9.1%)
原 油	8,598	19.9	アラブ首長国 (34.0%)	サウジアラビア (23.1%)	カタール (14.6%)
鉄 鉱 石	6,127	14.2	オーストラリア (64.2%)	ブラジル (20.6%)	インド (3.7%)
石 炭	5,606	13.0	オーストラリア (65.2%)	インドネシア (10.3%)	ロシア (10.2%)
揮 発 油	1,579	3.7	韓国 (33.2%)	インド (20.6%)	バーレーン (14.7%)
そ の 他	5,061	11.7	-	-	-
総 合 計	43,235	100.0	-	-	-

港湾計画とは

◆ 港湾計画とは

- ▶ 港湾空間（陸域・水域）において、開発、利用及び保全を行なうにあたっての指針となる基本的な計画
- ▶ 概ね10～15年先を目標年次として策定するもの
- ▶ 港湾法第3条の3に規定されている法定計画で、港湾管理者に策定が義務付けられている

港湾計画の方針

◆ 目標年次：平成30年代後半

京浜3港の連携強化により、首都圏の産業の競争力を高め、産業・雇用・暮らしを守り発展させることを目指して、“産業活動を支え、地域経済や市民生活の安定・向上に貢献する川崎港”を実現するため、以下の方針のもと、港湾計画を改訂する。

【産業・物流機能】 港湾機能の再編・拡充による物流機能の強化

- ① 外内貿コンテナ機能の強化及びターミナルの拡張
- ② 用地の拡張等により、自動車関連貨物取扱機能強化
- ③ 既存埠頭の再編・集約化により、バルク貨物の取扱機能強化
- ④ 臨港交通体系の充実
- ⑤ 小型船だまりの機能強化

【防災機能】 大規模地震発生時の支援機能の強化

- ① 大規模地震対策の強化
- ② 小型船だまり整備による海上輸送ネットワーク機能強化

【エネルギー機能】 エネルギー供給機能の維持・支援

- ① 首都圏の生活活動や市民生活を支える既存機能の維持・支援

【環境・交流機能】 港湾空間の特色を活かしたアメニティ空間の充実

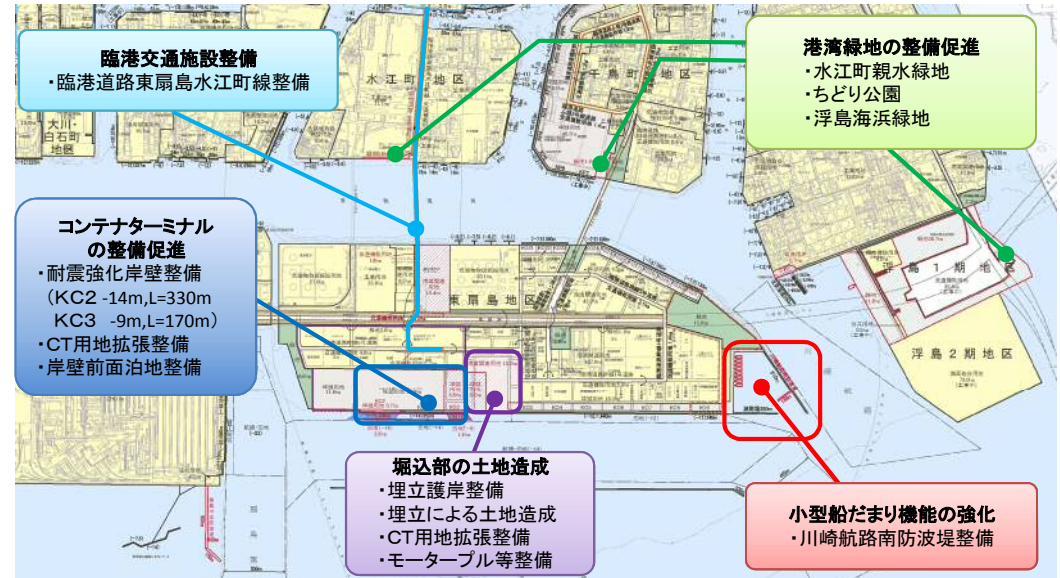
- ① 地域住民が海に親しむことのできる開放的な親水空間の創出
- ② 建設発生土等を適正に処分する海面処分場の確保
- ③ 自然環境と共生する港づくりへの取り組み

川崎港取扱貨物量目標値

	基準値 【H22年実績値】	目標値 【H30年代後半】
全体 貨物量	8,620万トン	8,290万トン
専用埠頭 貨物量	7,740万トン	7,010万トン
公共全体 貨物量	880万トン	1,280万トン
うちコンテナ 貨物量	29万トン	452万トン
コンテナ 個数	3万TEU	40万TEU

※貨物量は京浜3港で調整済み

港湾施設計画



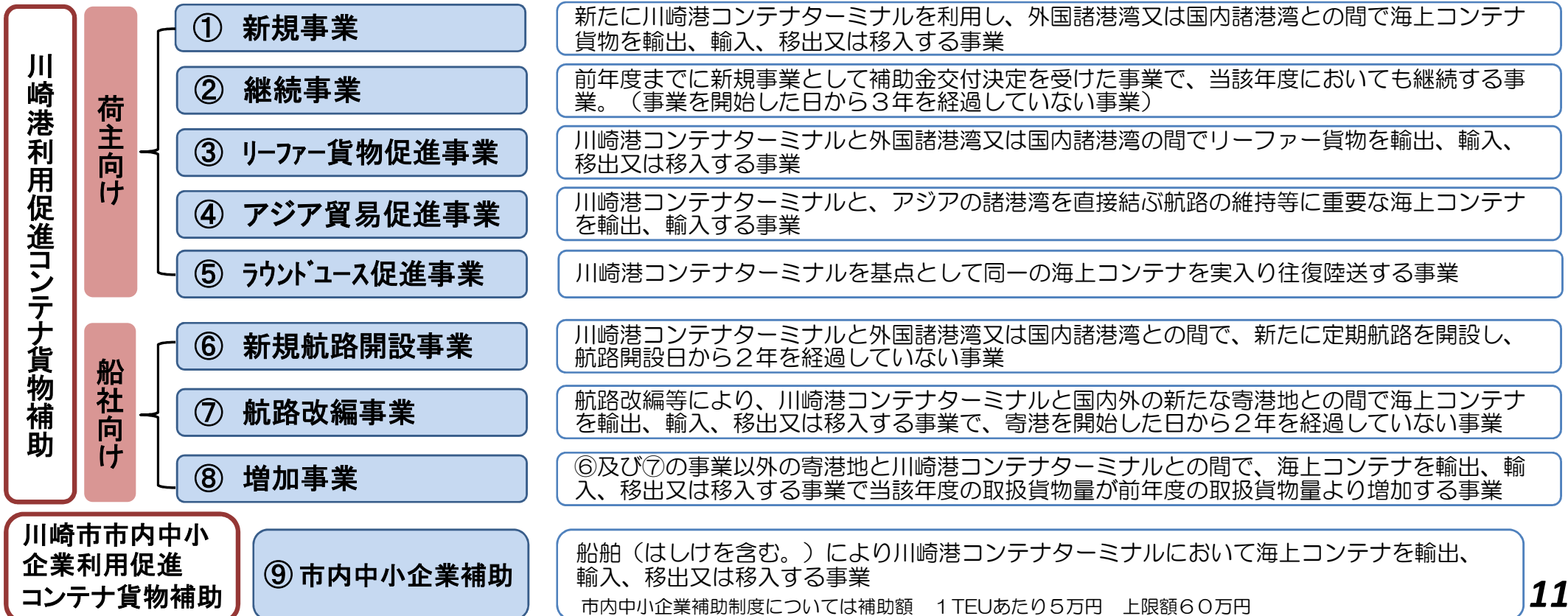
川崎港のコンテナ補助制度について

1 制度の概要

- ◆国際コンテナ戦略港湾である京浜港の国際競争力強化に向けた取組の一環として、平成23年度から実施
- ◆近年の川崎港コンテナターミナル取扱貨物量の増加に貢献
- ◆川崎港を取り巻く状況の変化に応じ、定期的に制度の見直しを実施
- ◆補助額(基本) 1FEU(※)あたり5千円または3千円、上限額2千万円(1事業あたり) ※FEU:40フィートコンテナ1本を表す単位

2 令和2年度の内容

◆9事業を実施



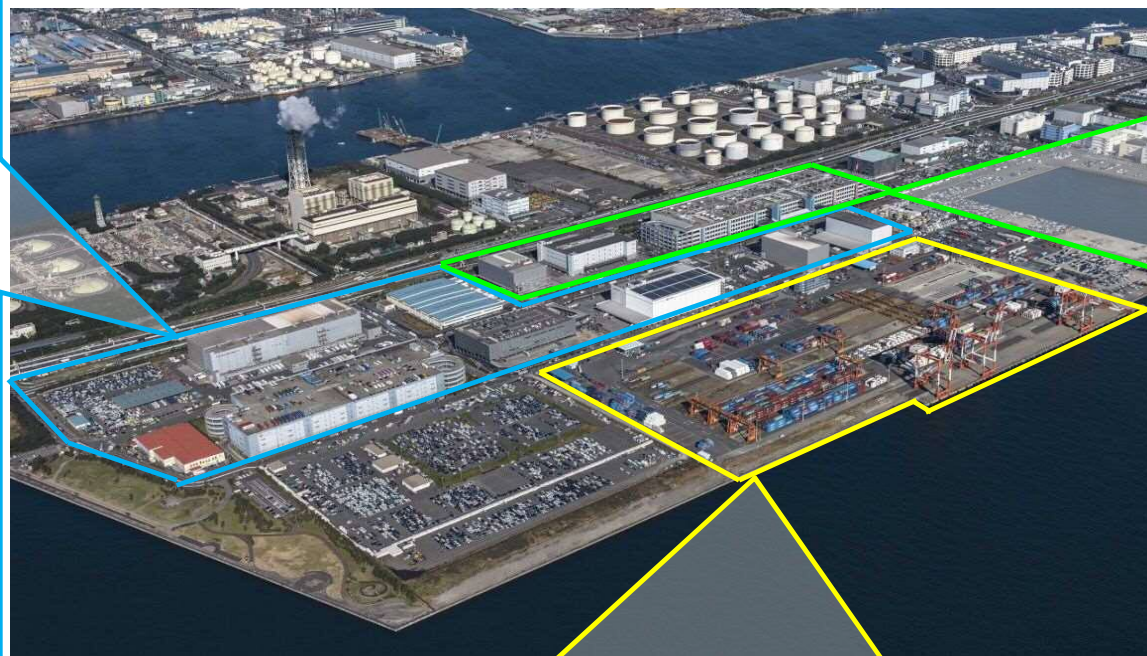
コンテナターミナルを核とした東扇島の物流促進



東扇島の川崎港コンテナターミナルの背後には、かわさきファズ物流センターや「東扇島総合物流拠点地区」進出企業をはじめ物流施設が多く立地し、活発な物流活動が展開されています。東扇島地区全体の就労者は約1万1,000人、冷凍冷蔵倉庫の設備能力は約100万トンに達し、我が国随一の集積を誇っています。これらの施設と更なる連携を図り、東扇島の物流促進に向けた取組を進めていきます。

東扇島総合物流拠点

- 川崎港コンテナターミナル背後の約23haを、「東扇島総合物流拠点地区」に位置付け。
- 「東扇島総合物流拠点地区形成計画」に基づき、2期にわたって進出企業の公募を実施。高機能物流施設が進出し、コンテナターミナル近接という特徴を活かした事業展開を行っている。
- 約2,600人が就労。
(平成30年度末時点)



かわさきファズ物流センター

- 冷凍冷蔵倉庫のほか、高圧電力、蒸気、排水施設等の設備を備え、様々な流通加工に対応可能な総合物流センター
- A、B、C棟の全3棟、延床面積は合計23万㎡。施設全体が総合保税地域。
- 施設の入居率100%、19社が入居。約2,000人が就労。
(平成30年度末時点)
- 東扇島総合物流拠点地区協議会の事務局として、地区のリーディングカンパニーとしての役割を担う。

進出事業者一覧

企業名	施設概要
POSCO Japan PC(株)	鋼材の輸出入、保管、加工及び販売
山九(株)	日用雑貨等を取り扱う総合物流センター
(株)ニチレイロジグループ	冷凍冷蔵食品等の輸入・集配
(株)ヨコロジ	中古自動車の輸出及び通関代行
日本郵便(株)	郵便物(国際・国内)の配送センター
(株)松岡	冷凍冷蔵食品等の輸入・集配
山手冷蔵(株)	冷凍冷蔵食品等の輸入・集配
(株)マルハニチロ物流	冷凍冷蔵食品等の輸入・集配
荒井商事(株)	中古自動車のオークション及び輸出

川崎港コンテナターミナル

- 平成28年3月に横浜川崎国際港湾(株)が京浜港の港湾運営会社に指定され、横浜港・川崎港の一体的運営と京浜港の国際競争力強化に向けた取組を行っている。
- 横浜川崎国際港湾・川崎臨港倉庫埠頭共同事業体の指定管理により運営。
- ターミナル概要(表)

面積	245,000㎡
ガントリークレーン	定格荷重40.6t×3基
トランスファークレーン	定格荷重40.6t×6基
岸壁	水深-14m、バース延長431m、エプロン幅20m
岸壁荷役	364日・24時間対応

川崎港コンテナターミナルの指定管理制度による運営について



1 経過

民間活力を導入し段階的な民営化を図るため、指定管理者による管理・運営を実施

- 平成26年4月 指定管理者制度の導入
(指定管理者：川崎臨港倉庫埠頭㈱)
- 平成28年4月 港湾運営会社制度(※)を活用し、横浜川崎国際港湾・川崎臨港倉庫埠頭共同事業体による指定管理を実施
- 平成30年4月 利用料金納付金制の導入

港湾運営会社について

国際戦略港湾(京浜港、阪神港)において、国有岸壁など行政財産の貸付を受け、コンテナ埠頭等を一体的に運営する株式会社として、港湾法に基づき国の指定を受けたもの。
京浜港においては横浜川崎国際港湾㈱(出資者：国・横浜市・川崎市等)が設立され、平成28年3月に港湾運営会社の指定を受けています。国の信用力やネットワークを背景に、広域的なポートセールスを展開しています。

2 ターミナル運営状況

指定期間	平成30年4月1日～平成33年3月31日(3年間)
指定管理者	横浜川崎国際港湾・川崎臨港倉庫埠頭共同事業体
業務内容	①施設の利用許可等に関する業務 ②施設の保守管理・軽易工事に関する業務などの管理業務 ③ポートセールスなどの集貨策

3 指定管理者によるポートセールス

平成30年4月から指定管理業務を拡充しポートセールス業務を位置づけ

横浜川崎国際港湾㈱と川崎臨港倉庫埠頭㈱が連携して専門知識に精通した人材を配置し、営業ノウハウを蓄積することで、民間活力を発揮した更なるポートセールスが可能となる。

4 指定管理業務の対象範囲

川崎港コンテナターミナルの管理・運営に加えて、平成26年11月の港湾計画の改定による「特定埠頭群の効率化に資する取り組みを行う範囲(青囲み)」の変更に合わせて、平成30年4月から業務範囲を拡大し、隣接するふ頭用地・シャーシープールなどについても指定管理者による一体的な管理・運営を行っています。

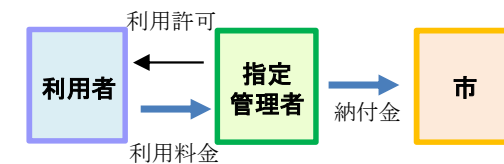


5 利用料金納付金制の導入

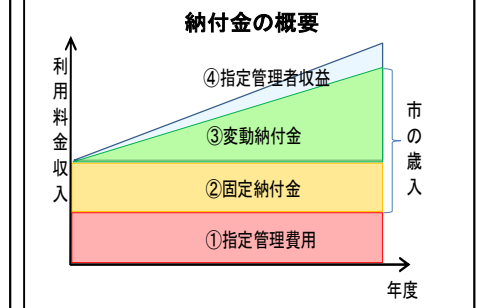
背景	<ul style="list-style-type: none"> コンテナ貨物取扱量の増加により経営の安定性が向上 東京オリンピック・パラリンピック開催やコンテナ船会社の経営統合など、商機拡大・環境変化への対応
----	---

指定管理者がノウハウや創意工夫を発揮し、より自立的なターミナル経営を行うことができるよう、平成30年4月から利用料金納付金制を導入

<利用料金納付金制>



利用料金収入の一定額を市に納付する制度を採用。収益の配分率は本市の歳入確保、指定管理者のリスク分担及び適正な利益確保等を踏まえ設定。



東扇島の現状

- ・臨港地区において、粗大ごみ等の不法投棄に加え、ごみのポイ捨ても多く、道路脇、路側帯にはごみが大量に放置されており、美観や川崎港のイメージを損ねています。
- ・東扇島臨港道路においては、台切シャーシ、トラックや通勤車両等の違法駐車、ナンバーのない中古車両による道路の占拠が常態化しており、物流の妨げとなっています。



これまでの取組

- ・臨港道路における定期的な委託による清掃
- ・官民合同の一斉清掃活動
- ・監視パトロールの実施
- ・東扇島クリーン大作戦
- ・中央分離帯及び歩道植栽改良工事



新たな取組

【取組】

- ・「ポイ捨てNOステッカー」の作成及び協力団体への配布による啓発活動（令和2年3月以降取組開始。トラック協会と連携し、ステッカー6,000枚配布）
- ・監視カメラの設置、事業委託による東扇島一斉清掃（令和2年度のみ）
- ・監視指導員の配置（警察OB3名）

【取組の効果】

- ・監視カメラ設置やドライバーへの啓発活動により、不法投棄の防止が図られ、東扇島島内のイメージ向上につながります。
- ・監視指導員の指導等により、臨港道路上の違法駐車がなくなり、島内の効率的な物流が図られます。

●警察OBによる取締りイメージ



※警告フラッグ



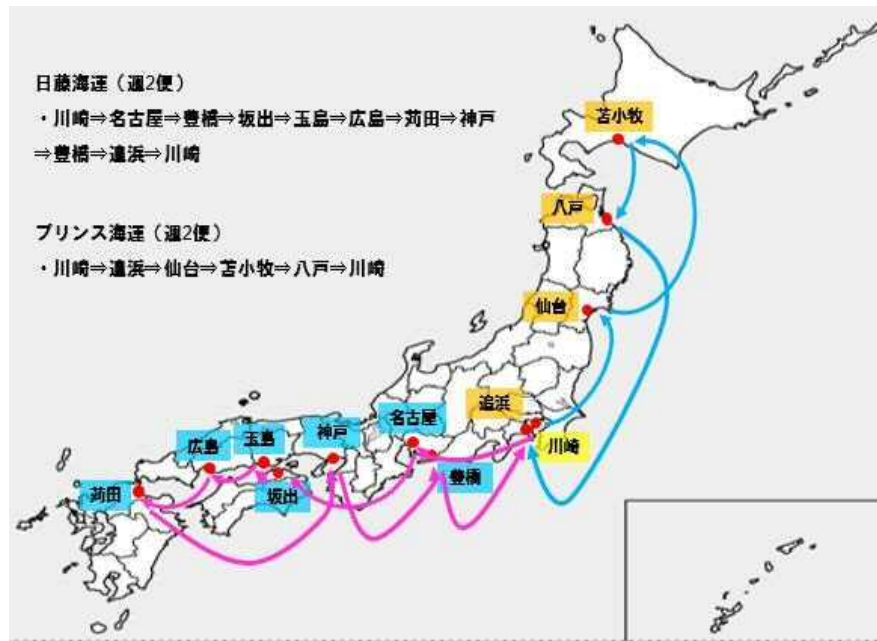
取組の方向性とスケジュール

対策	令和2年度			
トラックドライバーなどへのポイ捨てゼロの啓発	立地企業等、関係事業者へステッカー配布			
新規取組 監視カメラの設置、東扇島一斉清掃	関係者調整周知（～8月）	設置場所調査検討	設置工事	監視、摘発警察との連携
		清掃委託		
監視指導員の配置等	関係者調整周知（～6月）	事業実施		

内航RO-RO船による拠点港



現在、川崎港には、内航RO-RO船により、苫小牧港・仙台塩釜港・八戸港や、名古屋港・豊橋港・神戸港・広島港等と航路が結ばれています。環境対策としてのモーダルシフトや、社会的にも課題となっているトラックドライバー不足への対応など、内航RO-RO船への果たす役割は大きく、川崎港は、東西内航船の拠点港としての役割を果たしていきます。



【RO-RO船荷捌きの様子】



日藤海運株式会社



【日侑丸 NICHYU-MARU】
 竣工年月：2019年1月
 総トン数：10,083t
 全長：159.90m
 馬力：14,330馬力
 全幅：25.00m
 速力：20.7ノット
 積貨能力：乗用車900台
 トレーラー52両

【主な貨物】 完成自動車

プリンス海運株式会社



【玄武 GENBU】
 竣工年月：2017年1月
 総トン数：7,971 t
 全長：149.00m
 馬力：11,040馬力
 全幅：23.80m
 速力：20.5ノット
 積貨能力：乗用車600台
 トレーラー
 シャーシ50本

【主な貨物】 完成自動車 中古の建設機械 飲料 鑄鉄管 製紙

東扇島堀込部土地造成事業



【事業目的】

川崎港において増加するコンテナ貨物や主要貨物である完成自動車に対応するための用地、倉庫建て替えの代替用地を確保するため、東扇島堀込部において建設発生土を埋立用材として受入れて、海面埋立による土地造成を行う。

【事業概要】

事業主体：川崎市

事業期間：平成30年度～令和9年度

埋立区域：川崎区東扇島地先の公有水面

埋立面積：約13.2ha

埋立用材：建設発生土

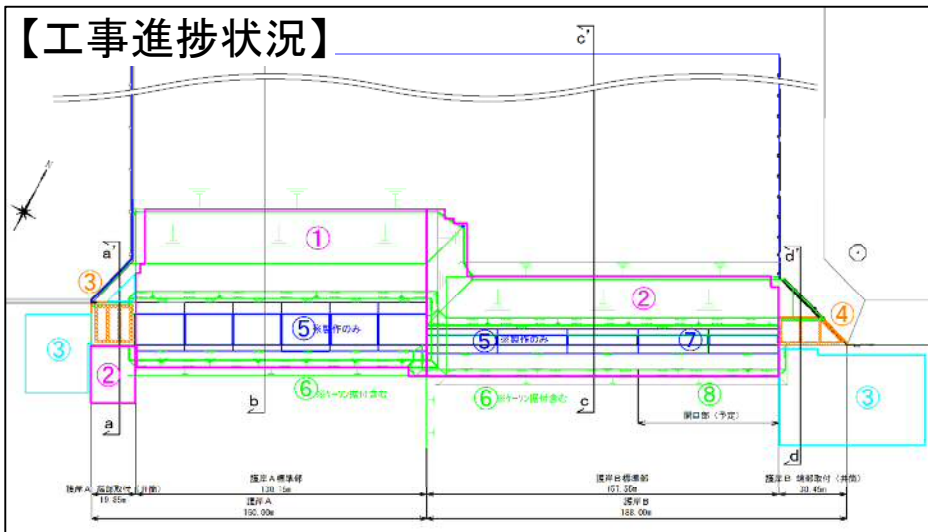
埋立土量：約140万m³



事業名	種別	概算額	備考
埋立事業	護岸築造工事費	128億円	JR東海負担
	埋立管理費	71億円	
	事務費	1億円	
基盤整備事業費		40億円	川崎市負担
合計		240億円	

※リニア中央新幹線梶ヶ谷非常口から搬出する建設発生土を埋立用材として受入れ、受入れに必要な護岸築造工事及び埋立管理等の費用は、東海旅客鉄道株式会社の負担とする。（平成30年3月基本協定締結）

【工事進捗状況】



- ①、②：地盤改良工(完了)
- ③、④：井筒式護岸築造工(完了)
- ⑤、⑦：ケーソン製作工(⑤完了)
- ⑥、⑧：護岸築造工(⑥施工中)

※⑦、⑧は開口部のため、埋立方法が海上投入(船による直接投入)の完了にあわせて実施予定です。

工事施工状況

(護岸築造工(ケーソン据付)完了 R2年3月現在)



臨港道路東扇島水江町線整備の推進



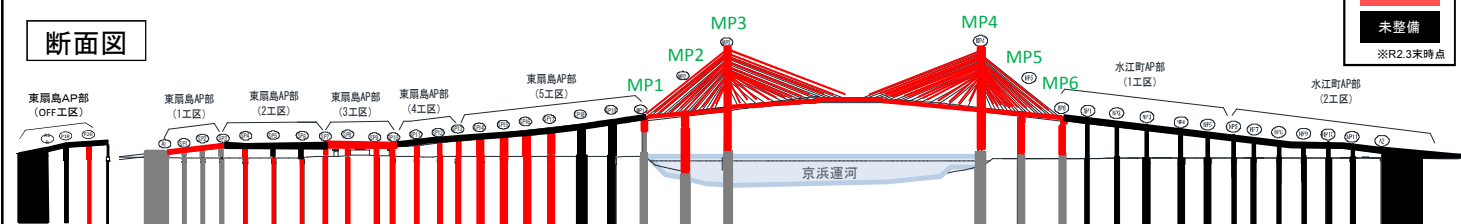
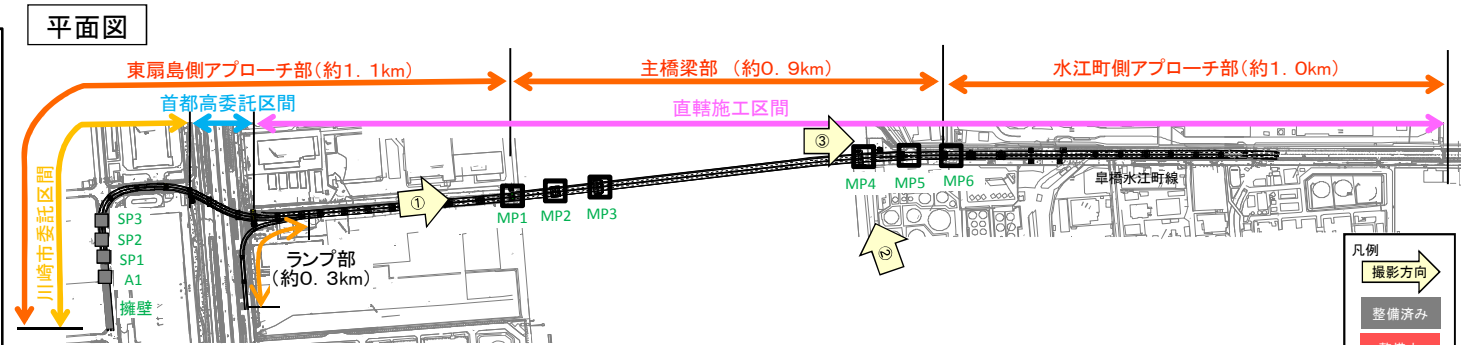
事業目的

東扇島～水江町地区臨港道路整備事業は、川崎港港湾計画に臨港交通施設として位置づけられ、京浜運河を挟む東扇島地区と水江町地区を橋梁で結びます。

本事業は、アクセス性向上による物流の効率化や交通の分散化による交通渋滞の緩和を図ることによる**物流機能の強化**、発災時の緊急物資輸送ルート多重化を図ることによる**防災機能の強化**を目的としています。また、臨海部の自動車交通渋滞の緩和、朝夕の交通混雑の緩和により、通勤の利便性が向上し、東扇島に立地している**企業等の雇用の増加や業務の拡大**も期待されています。

事業概要

整備箇所：川崎港 東扇島～水江町
 整備施設：臨港道路 延長3.0km
 事業期間：平成21年度～令和5年度
 総事業費：980億円
 事業主体：国土交通省 関東地方整備局
 道路規格：第4種第1級 往復4車線



① 橋脚MP1(平成29.8施工完了)
橋脚下部完成



② 橋脚MP4(平成30.12施工完了)
ニューマチックケーソン基礎完成



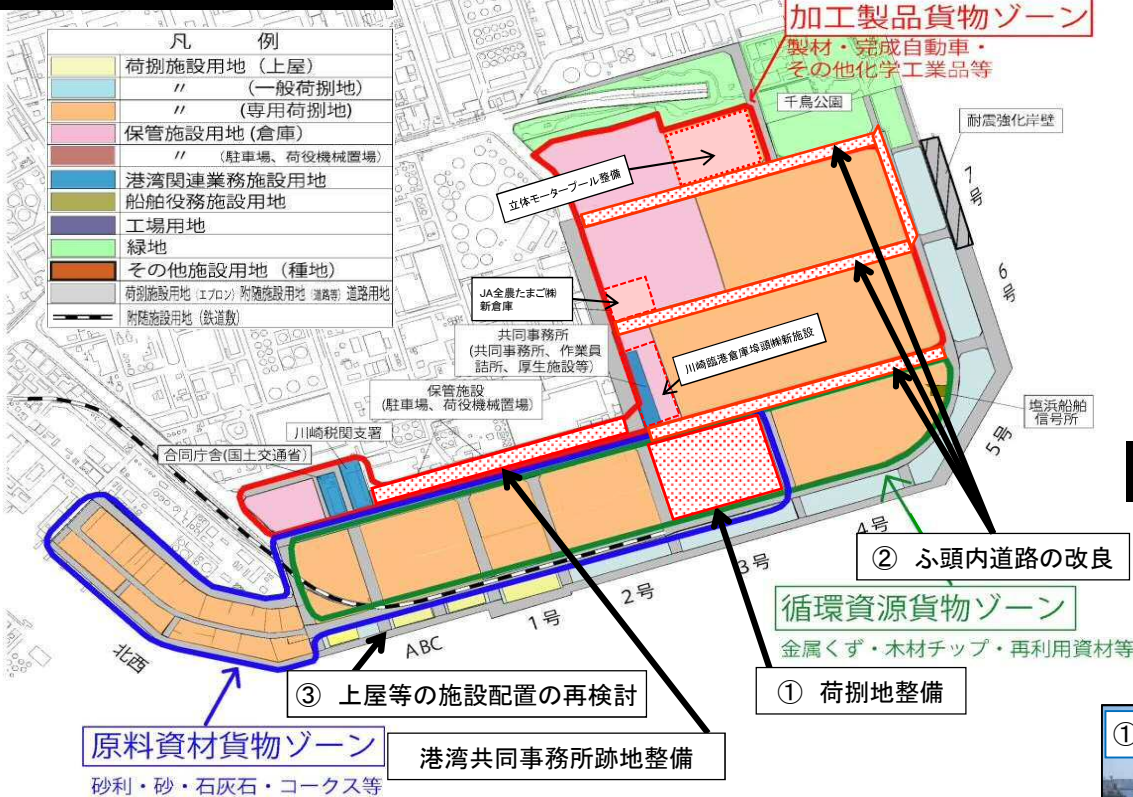
③ 橋脚MP5,6
橋脚部構築状況

千鳥町再整備計画



千鳥町地区の公共埠頭は、大部分の施設が建設後約50年が経過しており、施設の老朽化や取扱貨物の変化に伴う各施設の配置が、非効率となっているため、埠頭の再整備が求められています。このため、平成18年11月に「川崎港千鳥町再整備の基本的な考え方」、平成22年8月に「川崎港千鳥町再整備計画」を策定し、公共埠頭機能の再構築を図っています。

目指すべき施設配置計画



整備内容

- (1) 岸壁の改修
- (2) 上屋の改良
- (3) 上屋の撤去
- (4) 倉庫の再配置・高度化
- (5) 共同事務所等の高度化
- (6) 産業廃棄物処理施設用地の転換
- (7) 鉄道敷の一部撤去・改良
- (8) ふ頭内道路の改良
- (9) 荷捌地の補修
- (10) 緑地の整備
- (11) 自然エネルギーの活用
- (12) 駐車場等の整備
- (13) 岸壁の耐震化
- (14) 緑地の整備

現在進行中の事業

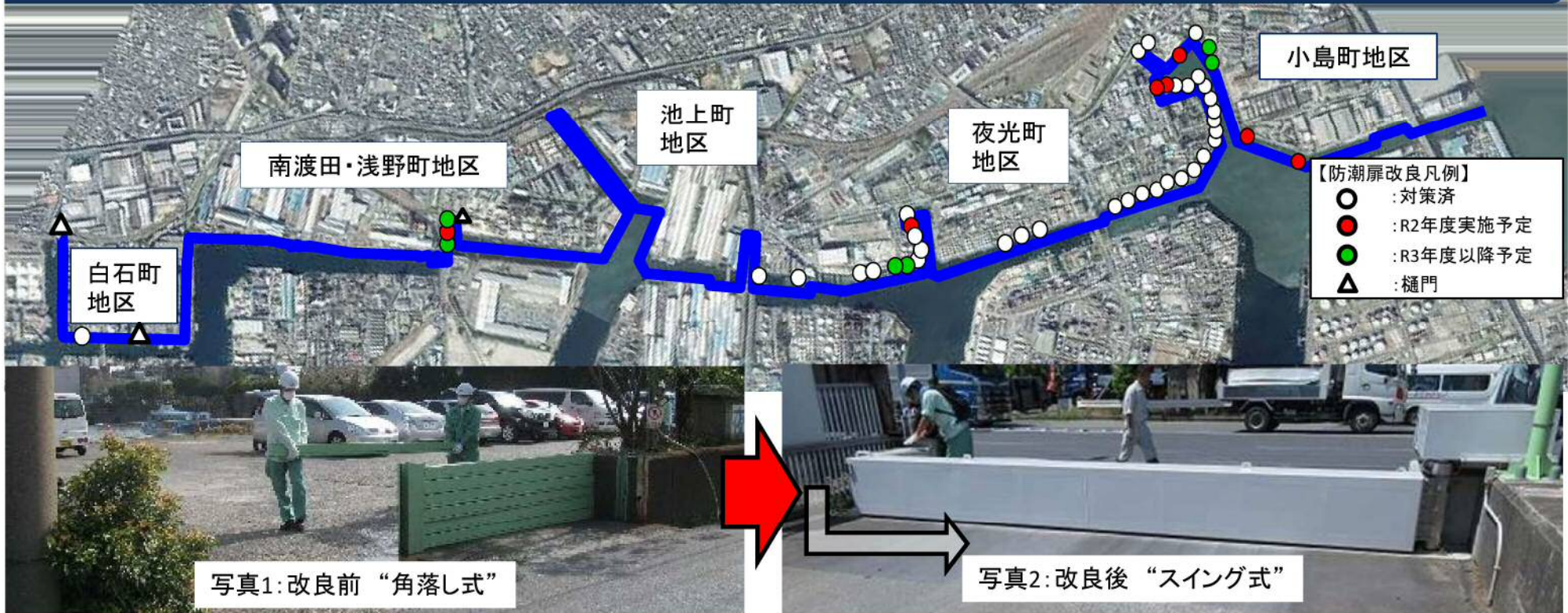
- 荷捌地整備 ① (荷捌地: 約23,000㎡)
- ふ頭内道路の改良 ② (幅員: 15m 延長: 約1,600m)
- 上屋等の施設の配置の再検討... ③



施設配置計画にあたっての視点

- (1) 東扇島との機能分担によるバラ貨物拠点の形成
- (2) 荷姿の同じ貨物を集約
- (3) 将来動向への対応

海岸保全施設の改良



1) 経緯

川崎港の海岸保全施設は、昭和34年の伊勢湾台風を契機に高潮対策事業として、防潮堤を整備。そのうち、民間の企業活動等に支障がある箇所については、防潮扉を整備。

2) 課題

- ・施設の老朽化
- ・多くの施設が民間企業の敷地内に整備されており、防潮扉の閉鎖作業は民間事業者に依頼しているが、角落し式の防潮扉の閉鎖には、相当な時間と労力がかかる。
- ・東日本大震災では防潮扉の閉鎖作業員に被害が多くあり、作業員の安全性を確保が必要。
- ・2019年の台風15号や19号など、関東地方に接近する台風が大型化している。

3) 解決策

- ・長寿命化計画に基づく適切な維持管理の推進
- ・防潮扉を迅速に閉鎖できるよう角落し式から引戸式(スイング式)等への改良を行う。
- ・企業との調整の結果、防潮扉を廃止する事が可能な箇所については、堤防化を行う。

○海岸保全施設の概要

海岸保全区域延長: 13,515m

建設年度: 昭和36~41年度

防潮扉等の設置箇所: 48箇所

改良対象箇所: 39箇所

改良済: 24箇所済

(R2年3月現在)

港湾における、災害対応力向上に向けた取組

○災害に備えた訓練及び協定締結について

(1) 首都直下地震防災訓練(実働訓練)

首都直下地震等が発生した場合、基幹的広域防災拠点である**東扇島東公園**は、陸路・海路・空路を活用した緊急物資の輸送拠点となるとともに、緊急消防援助隊等の広域支援部隊の活動拠点となります。そこで、港湾局は例年、**関東地方整備局**や**周辺企業等と合同**で「**緊急物資輸送**」や「**緊急確保航路啓開**」等の実働訓練を実施し、防災対応能力の向上とさらなる連携強化を図っております。



緊急支援物資海上輸送訓練の様子



緊急確保航路啓開訓練の様子

航路啓開



人命救助訓練の様子



ヘリコプター
夜間離着陸訓練
の様子



帰宅困難者輸送訓練の様子



液化ガス応急復旧訓練
の様子

(2) 防災用浮棧橋を活用した訓練の実施

地震等により臨海部の各島と内陸を結ぶ連絡橋が落橋するなどして各島が孤立化した際に備え、**本市所有の防災用浮棧橋及び船舶を活用した緊急物資や帰宅困難者の輸送体制**を確保するため、昨年度、初の試みとして、千鳥町設置の防災用浮棧橋を夜光物揚場に移送、及び帰宅困難者移送訓練を実施。

令和2年度においては、昨年度の訓練結果を検証するとともに、防災用浮棧橋の移設候補先の増加に向けた検討及び訓練を行うほか、臨海部広域防災訓練と連携した取組実施に向けて、関係局と調整を図ってまいります。



浮棧橋曳航訓練
の様子



帰宅困難者移送訓練
の様子

(3) 災害時の応急対策業務に関する包括的協定書締結【港湾版】

複数の港湾にまたがる大規模災害等の発生時に「**災害対応力（港湾機能の早期回復）の向上**」や「**災害応急対策業務の効率化**」などを図り、**被害の拡大防止と被害施設の早期復旧**に資することを目的とし、国（関東地方整備局、関東圏の地方自治体（港湾管理者））及び港湾関係団体との間で、包括的な協定書を締結（令和元年9月）。

ポイント

- ◇ 複数・多様な港湾関係団体との包括的な協定締結
⇒ **被災内容に応じて多様な港湾関係団体から要請先を選択可能**
- ◇ 大規模災害時には、国が**一元的**に港湾関係団体への要請を実施
⇒ **迅速・円滑・秩序的な災害応急対策が実施可能**

○その他の取組

- ・台風元年東日本台風等を踏まえ、台風災害に備えた体制の整備
- ・感染症の拡大防止等に向けた、関係機関との連携体制の強化



川崎マリエン、東扇島東公園等の取組

川崎マリエンの利用促進の取組

- 市民と港を結ぶ拠点として～
テニスコートの改修、ニュースポーツスクール、市民・近隣企業向けバドミントン・テニス・工作・茶道教室、クラシックカーの展示
- ビーチスポーツの拠点として～
東京オリンピックを契機とした競技別NTCの支援、各種ビーチバレーボール大会の開催、川崎ビーチスポーツクラブの支援、ビーチテニス等マリンスポーツの実施
- 川崎港の観光拠点として～
日本夜景遺産登録を活かした取り組みの実施、ライトアップの実施
ドラマ・CM撮影のさらなる誘致

今後のイベント等の予定(川崎マリエン)

- ・小学生向け夏休み工作教室 (8月)
- ・クリスマスイルミネーション・ライトアップ (12月)
- ・川崎マリエン写真・児童絵画コンクール (12月～1月) 等

大規模イベント続々開催

川崎みなと祭り

- 川崎みなと祭り・ちくさんフードフェア
- FCIインターナショナルアジリティー競技大会
- 川崎マリエンデューロ
- 川崎港トライアスロン大会 in 東扇島
- カーフマンジャパン・デュアスロン東扇島大会など



トライアスロン

東扇島防災浮棧橋の活用

- ・平常時の財産の有効活用
- ・川崎港の魅力の発見、浮棧橋の役割の発信
大人の社会科見学
工場夜景クルーズ 魅力体験ツアー、 など



ビーチバレー関連の取組

東京オリンピックを契機とした取組

- 東京五輪に向けて川崎マリエンがビーチバレーの「ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設」(競技別NTC)に指定される！(H30.4～)
- 競技別NTCを地元の産官学医が支える地域連携の取組を推進中

☆競技別NTCとは？

オリンピックでの活躍を目指し、トップレベル競技者が同一の活動拠点で集中的・継続的にトレーニング、強化活動を行うための拠点として、文部科学省が指定するものです。今後、国内トップレベルのビーチバレー選手が、東京オリンピックでの活躍に向けて川崎マリエンでトレーニングや強化活動を行うこととなります。



ビーチバレーボール大会誘致

充実したビーチバレーボール環境を活かし、積極的な誘致活動を実施



- 全日本ビーチバレーボール大学男女選手権大会
- ビーチバレーボール川崎市長杯
- U-23 ビーチバレーボールトーナメント
- 川崎マリエンシリーズ
- 川崎ビーチバレーinかわさきの浜

○ 一般社団法人川崎ビーチスポーツクラブの取組

- ・川崎マリエンを拠点とし、世界で活躍するトップアスリートの育成やスポーツ振興、青少年の育成、地域の活性化、川崎港の振興への寄与を目的とする当クラブの活動を支援。

⇒川崎マリエンから
オリンピック選手の誕生を！



令和2年度の主な事業及び予算



【令和2年度港湾局予算額及び財源内訳】

一般会計 10,364,782千円(特定財源10,364,080千円、一般財源702千円)

港湾整備事業特別会計 5,885,682千円(特定財源 5,885,682千円)

- 1 コンテナターミナルの利用促進・活性化
 - (1) 予算額 1,831,035千円
 - (2) 概要 コンテナターミナル内の荷さばき地及び照明設備等の整備
川崎港利用促進コンテナ貨物補助制度の実施
横浜川崎国際港湾・川崎臨港倉庫埠頭共同事業体によるコンテナターミナルの維持管理等
- 2 港湾施設の整備・維持管理
 - (1) 予算額 996,774千円
 - (2) 概要 維持管理計画に基づいた点検及び補修工事の実施等
- 3 川崎港海底トンネルの改修・維持管理
 - (1) 予算額 214,008千円
 - (2) 概要 トンネル設備更新及び附帯設備改修に向けた検討等
- 4 臨港道路東扇島水江町線整備の推進
 - (1) 予算額 5,445,586千円
 - (2) 概要 国の直轄事業である臨港道路東扇島水江町線の整備、及び関連事業として関係道路の改良工事の実施等
- 5 東扇島堀込部土地造成事業の推進
 - (1) 予算額 2,886,322千円
 - (2) 概要 海面埋立に必要な護岸整備等
- 6 ポートセールス事業等の推進
 - (1) 予算額 20,727千円
 - (2) 概要 新規航路開設や既存航路の安定化に向けたポートセールスの推進等
- 7 港湾・海岸の防災・減災対策の推進
 - (1) 予算額 489,866千円
 - (2) 概要 海岸保全施設の改良の実施
浮島2期地区廃棄物埋立護岸の復旧等
- 8 魅力ある緑地・親水空間の形成
 - (1) 予算額 449,111千円
 - (2) 概要 東扇島の環境美化及び交通環境の改善に向けた取組の推進
東扇島東公園、川崎マリエン及びビーチバレーコート¹の維持管理
港湾緑地等の施設を活用したイベント開催などの新たな賑わいの創出に向けた取組等
- 9 浮島2期地区埋立事業の推進
 - (1) 予算額 1,261,189千円
 - (2) 概要 浮島2期廃棄物処分場の埋立護岸の維持管理及び埋立作業等

データ集①

○日本の港湾(区分)

国際戦略港湾	国際拠点港湾	重要港湾	地方港湾	5 6 条港湾	合計
5	18	102	807	61	993

・取扱貨物ランキング(主要港湾中上位20港)

(単位:千トン)

順位	港名称	合計	輸出	輸入	内貿
1	名古屋港	196,593	53,711	75,938	66,944
2	千葉港	153,198	9,645	82,756	60,797
3	横浜港	113,958	32,851	45,627	35,480
4	苫小牧港	107,444	1,282	16,267	89,895
5	北九州港	101,762	7,271	25,272	69,220
6	神戸港	95,486	23,708	28,453	43,325
7	東京港	91,543	13,289	36,537	41,718
8	水島港	87,246	10,019	45,738	31,488
9	大阪港	83,793	9,626	26,325	47,842
10	川崎港	81,088	7,492	43,235	30,361
11	堺泉北港	72,116	3,787	22,971	45,359
12	四日市港	60,562	4,222	35,982	20,358
13	徳山下松港	51,228	3,773	16,180	31,275
14	仙台塩釜港	48,675	2,070	13,849	32,756
15	和歌山下津港	35,311	4,487	16,305	14,519
16	博多港	34,260	8,333	11,068	14,859
17	姫路港	33,322	873	19,176	13,273
18	新潟港	32,297	1,131	14,064	17,102
19	室蘭港	22,673	1,565	10,212	10,896
20	清水港	18,938	4,545	8,238	6,155

出典:川崎港統計年報(平成30年)

・近隣港との取扱貨物比較

出典:平成30年各港統計データより作成

川崎港	化学工業品	47.2%	鉱産品	36.6%	金属機械工業品	7.4%	その他	8.8%
東京港	金属機械工業品	32.9%	化学工業品	15.6%	特殊品	14.4%	その他	37.0%
横浜港	金属機械工業品	35.1%	化学工業品	24.1%	鉱産品	18.0%	その他	22.8%
千葉港	化学工業品	50.2%	鉱産品	33.3%	金属機械工業品	12.1%	その他	4.3%

※凡例:【化学工業品】LNG、石油製品など、【鉱産品】石炭、鉄鉱石、原油など、【金属機械工業品】鉄鋼、完成自動車など、【特殊品】取合せ品、金属くず、廃土砂など

○川崎の特色

・貿易額

輸出額	1兆1,144億8百万円	対前年比 99.5%
輸入額	2兆3,651億91百万円	対前年比 106.3%

出典:川崎税関支署「平成30年川崎港貿易概況」

・入港隻数・総トン数

(単位:隻・総トン)

	外航船	内航船	総計
隻数	2,654	18,768	21,422
総トン数	71,876,473	23,941,380	95,817,853

出典:川崎港統計年報(平成30年)

・取扱貨物の種類

LNG	20.1%	原油	14.8%	石炭	8.5%	揮発油	8.2%
鉄鉱石	7.6%	完成自動車	5.9%	その他	35.1%		

出典:川崎港統計年報(平成30年)

・出入貨物の割合

輸出	9.2%	輸入	53.3%	移出	18.2%	移入	19.2%
----	------	----	-------	----	-------	----	-------

出典:川崎港統計年報(平成30年)

データ集②

・主な貨物の輸出先

品 種	平成30年		主な輸出先		
	数量(千トン)	構成比(%)	1	2	3
完成自動車	2,095	28.0	アメリカ (64.4%)	ジャマイカ (5.9%)	タンザニア (4.8%)
化学薬品	1,363	18.2	中国 (65.3%)	韓国 (20.0%)	台湾 (10.0%)
金属くず	1,068	14.3	韓国 (50.4%)	ベトナム (26.6%)	中国 (15.6%)
重 油	836	11.2	中国 (42.2%)	香港 (26.1%)	シンガポール (18.1%)
揮 発 油	543	7.3	アメリカ (34.8%)	韓国 (34.6%)	中国 (11.5%)
そ の 他	1,586	21.2	-	-	-
総 合 計	7,492	100.0	-	-	-

・主な貨物の輸入先

品 種	平成30年		主な輸入先		
	数量(千トン)	構成比(%)	1	2	3
L N G	16,264	37.6	アラブ首長国 (34.6%)	オーストラリア (31.3%)	マレーシア (9.1%)
原 油	8,598	19.9	アラブ首長国 (34.0%)	サウジアラビア (23.1%)	カタール (14.6%)
鉄 鉱 石	6,127	14.2	オーストラリア (64.2%)	ブラジル (20.6%)	インド (3.7%)
石 炭	5,606	13.0	オーストラリア (65.2%)	インドネシア (10.3%)	ロシア (10.2%)
揮 発 油	1,579	3.7	韓国 (33.2%)	インド (20.6%)	バーレーン (14.7%)
そ の 他	5,061	11.7	-	-	-
総 合 計	43,235	100.0	-	-	-

・コンテナ貨物量

単位: TEU

平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
77,207	107,890	111,978	129,298	146,894

※川崎港全体(公共バース・民間バース)

・平成30年輸出コンテナ 主要品目と仕向地

※公共バース

品目	主な仕向地		取扱量(トン)
1 自動車部品	インドネシア	中国	102,795
2 再利用資材 (古紙など)	中国	韓国	47,983
3 化学薬品	中国	韓国	44,327
4 合成樹脂など	中国	韓国	16,016
5 取合せ品 (小口混載貨物)	中国	シンガポール	12,024

・平成30年輸入コンテナ 主要品目と仕出地

※公共バース

品目	主な仕出地		取扱量(トン)
1 家具装備品	中国	ベトナム	714,772
2 その他日用品 (日用雑貨など)	中国	ベトナム	276,567
3 製造食品 (冷凍食品など)	中国	タイ	89,262
4 その他畜産品	中国	無し	23,804
5 が ん 具	中国	ベトナム	15,962

○川崎港の企業活動

・東扇島物流拠点地区

従業者数 合計2,581人(平成31年3月時点)

東扇島総合物流拠点地区		
事業者	事業開始	延床面積
【第1期地区進出企業】		
株式会社ヨコロジ	平成21年7月	約16,000㎡
POSCO Japan PC株式会社	平成20年9月	約13,000㎡
株式会社ニチレイロジグループ	平成23年2月	約71,000㎡
山九株式会社	平成22年1月	約110,000㎡
【第2期地区進出企業】		
株式会社マルハニチロ物流	平成26年2月	約23,000㎡
山手冷蔵株式会社	平成25年5月	約20,000㎡
株式会社松岡	平成25年2月	約52,000㎡

・従業者数

※平成28年経済センサス

臨港地区全体	5万人	東扇島	1万1千人
--------	-----	-----	-------